

Site Report

## 埼玉製作所（産業機器カンパニー）

### 事業概要

所在地	〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410
土地面積	143,438m <sup>2</sup>
建物面積	92,061m <sup>2</sup>
従業員数	527人
主な生産品目	ロビンエンジン、 エンジン発電機など



2011年3月31日現在



### トップメッセージ



執行役員  
埼玉製作所所長  
**上野 康男**

産業機器カンパニーでは、スバル発電機、投光機、ポンプなどの製品や、土木・建設機械、農業機械などに搭載する汎用エンジンを製造しています。これらの製品は緊急時対応、災害地支援・復興・防災に大きな役割を果たしています。2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震では私たちがつくる製品が人々のライフラインを維持するためにいかに役に立つかを再認識しました。当社製品を通じ社会の役に立つという企業責任を果たしていきたいと考えています。

さらに、私たち産業機器カンパニーは、製品の開発から廃棄にいたるまでのすべての活動において地球環境保全のため「地球温暖化防止」、「省エネルギー」、「廃棄物や環境負荷物質削減」を積極的に推進し、人々に信頼される企業を目指します。

## 地域社会とのかかわり

### 東北地方太平洋沖地震の被災地域支援活動

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災地域に対して当社は義援金5,000万円を含む総額約1億円の支援を行いました。その中に産業機器カンパニーの製品(スバル発電機、投光機、清水用ポンプ、泥水用ポンプ、合計約200台(5,000万円相当)が含まれています。支援物資の一部は、産業機器カンパニーの従業員が直接現地にお届けし、お役に立てました。



広田地区に到着した発電機



「冷蔵庫で食料等を保管するための電源として使用したい」、「停止している井戸水を汲み上げて、お湯を沸かして、町内の方々にお風呂を提供したい」と喜びの声が届けられました。

### 地域社会とのコミュニケーション

#### ■ ピカピカ北本お任せプログラム



産業機器カンパニーは毎月1回、従業員による工場周辺の美化・清掃活動を行っています。2010年度も酷暑時期を除いて毎月実施し、多数の従業員が参加しました。

#### ■ 北本市内中学校の職場体験教育受け入れ



産業機器カンパニーは北本市内の中学校が社会教育の一環として行っている、職場体験の受け入れを行っています。受け入れた生徒さんには3日間、受付業務のお手伝いや、部品製作の実習などで仕事の体験をしていただいています。

#### ■ 工業高校教諭研修受け入れ



埼玉県の県立高等学校での教諭歴5年を経過した先生の研修を毎年受け入れています。産業機器カンパニーの概要説明・工場見学に加え、企業環境、企業が望む人材などの講義、および当社のEMS活動の説明も行って、先生方の見識を高めていただくお手伝いをしています。

# 環境保全の取り組み

## グリーン調達活動

産業機器カンパニーはサプライチェーンを含めた環境マネジメントシステム構築に力を入れています。地球と社会と人にやさしい商品をお客さまにご提供するには、当社の製造過程だけではなく、サプライチェーンの力を合わせる事が不可欠となります。そこで外部機関によ

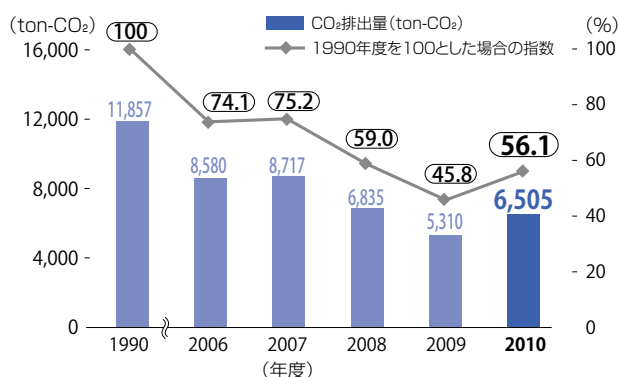
る認証取得(ISO14001・エコアクション21等)を基本としたEMS構築100%を継続して行っており、2010年度対象の103社に取得していただいています。また、お取引先にはその先2次・3次以降の環境マネジメントをお願いし活動を推進しています。

## 地球温暖化防止、省エネルギーへの取り組み

2009年度から継続している活動のNHK(無くす・減らす・変える)の手法に沿い改善を進め、強制気化装置の使用廃止、ボイラー運転時間の最適化選定、洗浄機タンクへの断熱シート貼りを行うなどして、夏場のLPG使用量は20%削減を達成しました。2010年度はさらに活動を推進し、昇温はLPG・電気ヒーター、保温は電気ヒーターを使用するハイブリッド熱源化に取り組みました。これにより夏場(4月~11月)は電気ヒーターのみで運用が可能となり、ボイラー完全停止を実現しました。

なお、CO<sub>2</sub>排出量が対前年(2009年度)で増加していますが、2009年度に大幅に落ち込んだ生産量が回復したことによるもので、排出量は前々年の2008年度を下回る水準となっており、傾向としては、改善による削減が推進できていると考えています。

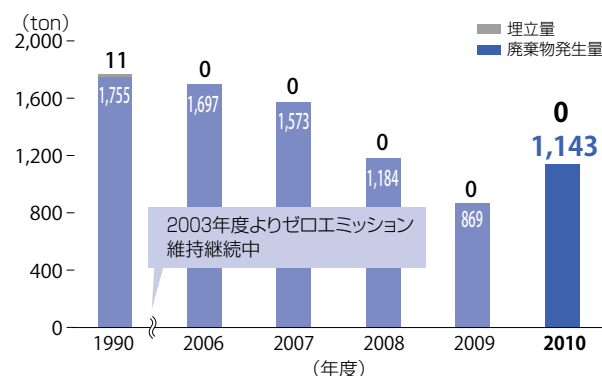
■ CO<sub>2</sub>排出量の推移



## ゼロエミッションへの取り組み

2010年度は、機械加工ラインの統廃合により効率化を図りましたが、廃棄物発生量は1,143トンとなりました。これは、2009年度に大幅に落ち込んだ生産量が回復したことによるものです。今後は目標値をクリアできるようさらなる活動を行っていきます。

■ 廃棄物発生量と埋立量の推移



## 公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

2010年度には、夜間の騒音規制値超過が発生してしまったため北本市に報告し、原因分析・対策を行って、規制値厳守に努めています。

## 2010年度の環境関連測定結果

### ■ 水質測定結果

#### ■ 下水道放流、北本市条例

項目	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5~9	5.4~8.6	8.3	7.3	7.8
BOD	600	480	390	100	166.7
SS	600	480	240	69	134.5
n-ヘキサン抽出物質(動植物油)	30	24	22	4.6	8.0

【記号】… pH：水素イオン濃度、BOD：生物化学的酸素要求量、  
SS：水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質  
【単位】… pH除きmg/ℓ

### ■ 騒音・振動測定結果

[単位:dB(A)][単位:dB(Z)]

	測定時間帯	規制値	自主基準値	測定数	測定値
騒音関係	朝、夕	50	49	1	42~49
	昼	55	54	1	46~52
	夜	45	44	1	40~49
振動関係	昼	60	59	1	32
	夜	55	54	1	30未満

### ■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

【単位：kg】

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	消費量
40	100-41-4	エチルベンゼン	1,338.8	22.9		1,315.9
63	1330-20-7	キシレン	7,161.8	68.6		7,093.2
188	101-83-7	N,N-ジシクロ	941.1			941.1
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	960.0	3.6		956.4
227	108-88-3	トルエン	1,053.8	172.3		881.5
299	71-43-2	ベンゼン <sup>※1</sup>	477.0	31.9		445.1
合 計			11,932.5	299.4		11,633.1

\*0.5トン/年以上の取扱物質を記載しています。

※1 ベンゼンは特定第1種化学物質です。

## 沿革

1943年	3月	中島飛行機 大宮製作所開設、海軍機体生産開始
1946年	6月	富士産業(株) 大宮工場、船外機エンジン生産開始
1950年	8月	大宮富士工業(株)設立
1953年	7月	富士重工業(株)設立
1970年	2月	ロビンエンジン生産累計100万台突破
1985年	7月	ロビンエンジン生産累計1,000万台突破
1995年	4月	埼玉製作所稼働開始
1999年	5月	埼玉製作所サイトとしてISO14001認証を取得
2002年	3月	埼玉製作所ゼロエミッション達成
2010年	1月	富士重工業としてISO14001統合認証を取得



### お問い合わせ先

産業機器カンパニー 総務課 TEL 048-593-7755  
FAX 048-593-7790

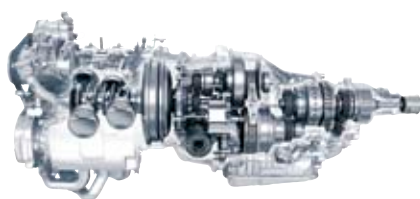
# 富士重工業株式会社 2011 CSRレポート

Site Report

## 東京事業所

### 事業概要

所在地	〒181-8577 東京都三鷹市大沢3-9-6
土地面積	158,147m <sup>2</sup>
建物面積	69,173m <sup>2</sup>
従業員数	1,084人
主な事業内容	自動車用エンジン、トランスミッションの 研究開発、実験



2011年3月31日現在

### トップメッセージ



執行役員  
東京事業所長  
**高橋 正士**

東京事業所では、スバル車のパワーユニット(エンジン・トランスミッション)開発を担うサイトとして、環境にやさしいクルマづくりを目指し、走りと環境安全性能を高い次元で両立させるためにたゆまぬ努力を続けています。

これからも、クルマの環境性能を左右する重要なポジションにあることを自覚するとともに、周辺地域や社会との共生の重要性を認識しながら環境に配慮した開発や事業活動に心掛け、燃費や排気ガスの性能向上、クリーンエネルギー自動車の開発などを通し、「クリーンなパワーユニット」を提供することで社会に貢献していきます。

# 地域社会とのかかわり

## 地域社会とのコミュニケーション

私たちは、住宅地に隣接する“都市型事業所”として、周辺地域の皆さまとお付き合いを大切にしています。ともに豊かな社会を創造するために、安全防災体制の整備や、地域行事・クリーン活動などに取り組んでいます。



2010年4月  
大型地震に備えた避難訓練に全従業員が参加



2010年4月  
三鷹警察署より交通安全表彰を受賞



2010年5月  
三鷹警察署にご協力をいただき二輪車実技教室を開催



2010年6月  
三鷹市役所にて開催された「みたか環境フェスタ」にEVを出展。試乗体験会を実施



2010年7月  
自衛消防訓練審査会にて男子・女子の部ともに優勝



2010年8月  
方がーに備え、心肺蘇生法、AED使用方法などの三鷹消防署指導による救命講習を受講



2010年9月  
2011年1月  
関連企業を含む従業員が日本赤十字社の献血活動に参加



2011年1月  
武蔵野市宮野球場にて近隣の小学生200名に当社公式野球部による野球教室を開催

## 環境保全の取り組み

私たちは、自動車をはじめとする総合輸送機器メーカーとして、「地球環境問題への対応は経営における重要課題」と認識し、環境保全の取り組みを進めていきます。

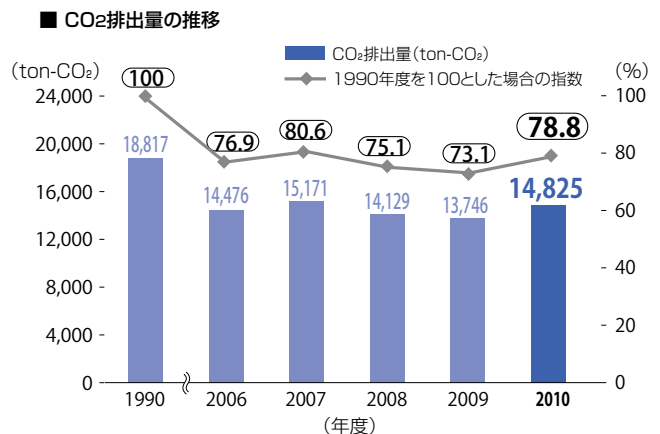
### 地球温暖化防止への取り組み

CO<sub>2</sub>排出量は、2010年までに1990年実績比22%の削減を目標に取り組みましたが、わずかに目標達成に届きませんでした。

これは、業績拡大に伴い、研究開発業務が増加したため、使用エネルギーが増えたことが原因です。

今後もさらに、CO<sub>2</sub>排出量削減・省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止に貢献していきます。

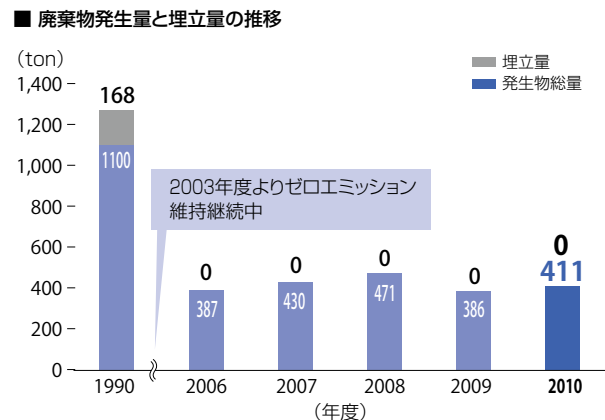
なお、2010年度までのCO<sub>2</sub>排出量の実績推移は右の図のとおりです。



### ゼロエミッションへの取り組み

2003年に、ゼロエミッションを達成しました。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量の削減に向け努力していきます。



新事務本館の屋上に設置している太陽光発電

## 公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。今後も、基準値超過・苦情を含めてゼロを目標に取り組んでいきます。

## 2010年度の環境関連測定結果

大気・水質すべての測定結果は、法令はもとより法令よりも20%厳しい自主基準値を設定し、取り組んでいます。

### ■ 水質測定結果

#### ■ 三鷹市公共下水道

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	5.9~8.4	8.4	7.7	8.2
BOD	300.0	240.0	330.0	23.0	97.7
SS	300.0	240.0	195.0	15.0	89.2
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5.0	4.0	4.0未満	4.0未満	4.0未満
n-ヘキサン抽出物質(動植物油)	30.0	24.0	100.0	4.0	4.7
全りん	16.0(8.0)	12.8	7.8	1.5	3.4
全窒素	120(60)	96	51	15	29
溶解性マンガン	10.0	8.0	0.03未満	0.03未満	0.03未満
シアン	1.0	0.8	0.01未満	0.01未満	0.01未満

【記号】… pH：水素イオン濃度、BOD：生物学的酸素要求量  
SS：水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質  
【単位】… 大腸菌一個/mℓ、その他はpH除きmg/ℓ、  
全りん・全窒素の規制値は日間平均値

### ■ 大気測定結果

測定結果は、すべて大気汚染防止法に適合しており、20%上乗せした自主基準値もクリアしています。

#### ■ 大気汚染防止法

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー	NOx	65	52	33	33
	ばいじん	0.3	0.24	0.001	0.001

【単位】NOx：ppm、ばいじん：g/m<sup>3</sup>N

### ■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

【単位：kg】

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域 排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
53	100-41-4	エチルベンゼン	15,347	0.3			15,347		
80	1330-20-7	キシレン	65,093	1			65,092		
297	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	12,244	0.1			12,244		
300	108-88-3	トルエン	213,959	10			213,949		
296	95-63-6	1,2,4-トリメチルベンゼン	42,839	0.2			42,839		
400	71-43-2	ベンゼン <sup>*1</sup>	6,199	1			6,198		
392	110-54-3	N-ヘキサン	19,752	5			19,747		
合 計			375,434	17.9	0	0	375,416	0	0

\*0.5トン/年以上の取扱物質を記載しています。

※1 ベンゼンは特定第1種化学物質です。

## 沿革

1941年	5月	中島飛行機 三鷹研究所設立
1955年	4月	富士重工業(株) 三鷹製作所となる
1958年	2月	スバル360用空冷エンジン生産開始
1975年	8月	レオーネ用エンジン(SEEC-T)生産開始
1982年	2月	製造部門の群馬地区移転がスタート
1989年	2月	東京事業所に名称変更
1996年	10月	スバル開発本部ISO9001認証取得
1999年	3月	事業所内でのエンジン・トランスミッションの生産を終了 (研究開発に集中)
2004年	1月	東京事業所サイトとしてISO14001認証を取得
2010年	1月	富士重工業としてISO14001統合認証を取得

### お問い合わせ先

東京事業所 総務部 TEL 0422-33-7010  
FAX 0422-33-7777



# 富士重工業株式会社 2011 CSRレポート

Site Report

## 本社 ※ 1

### 新宿サイト

所在地	〒160-8316 東京都新宿区西新宿1-7-2
土地面積	1,600m <sup>2</sup>
建物面積	7,254m <sup>2</sup>
従業員数	593人
主な事業内容	スバル製品の企画、マーケティング および販売 ならびにコーポレート部門



### 大宮サイト

所在地	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町 1-854-1
土地面積	3,644m <sup>2</sup>
建物面積	4,268m <sup>2</sup>
従業員数	55人



### スバル総合研修センター(スバルアカデミー)

所在地	〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1460
土地面積	10,397m <sup>2</sup>
建物面積	13,378m <sup>2</sup>
従業員数	39人
主な事業内容	スバル総合研修センター



本社はスバルの商品企画、マーケティング、販売およびコーポレート部門などから構成された複合組織です。社内外コミュニケーションを重視し、自分たちにできる目の前のことから取り組んでいます。

※1 「本社」とは、スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門を行う新宿サイト、スバルパーツ製品のマーケティングおよび販売ならびにスバルITシステムの開発および構築を行う大宮サイト、当社従業員ならびに販売特約店などの教育を行う宿泊施設を備えた総合研修施設のスバルアカデミーサイトの3サイトを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

2011年3月31日現在

## 地域社会とのかかわり

### スバルビルを一時避難場所として提供

3月11日に発生した東日本大震災は公共交通機関に大きな打撃を与え、首都圏交通網はマヒ状態となりました。これにより多くの方が自宅へ帰宅できない「帰宅困難者」を生みましたが、新宿駅に近い本社スバルビルでは、そうした一般の帰宅困難者約60名を一時避難場所として受け入れ、館内の終夜暖房や一時的にご利用いただくダンボール、鉄道運行情報の提供などを行いました。

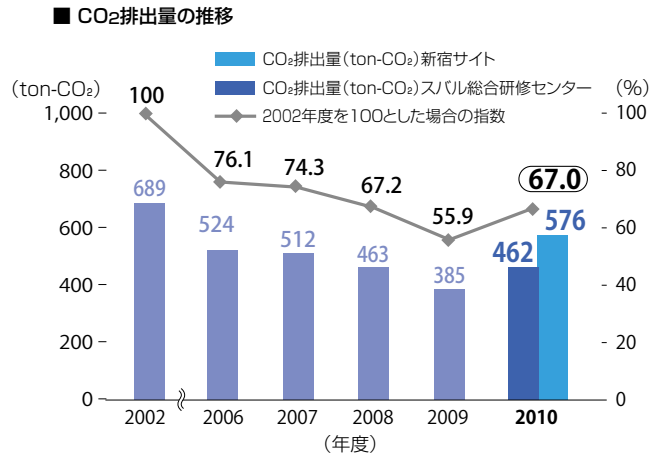
# 環境保全の取り組み

## 地球温暖化防止への取り組み

新宿サイトにおける2010年度のCO<sub>2</sub>排出量は、約462ton-CO<sub>2</sub>となり、2009年度比20%の増加となりました。これは、2009年度に比べて操業が高まったことが影響しています。

「エコオフィス活動」の名称で活動してきた従業員一人ひとりの省エネ活動の再確認や原単位評価での運用管理を導入するなど、さらなる省エネルギー活動に取り組んでいきます。

また、2009年度にISO14001統合認証を取得したスバル総合研修センターを、2010年度より併記しています。研修生への節電啓発を進めていきます。



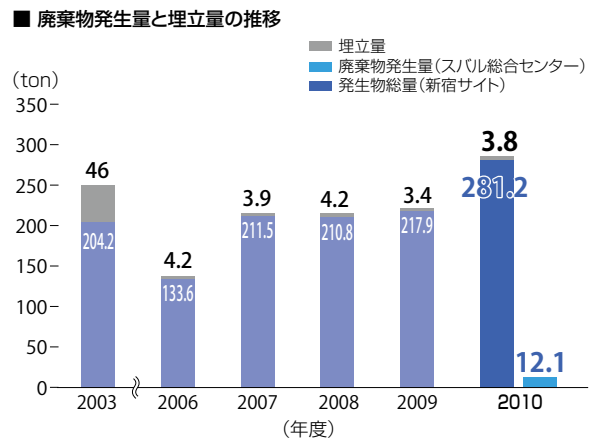
## ゼロエミッションへの取り組み

新宿サイトの2010年度廃棄物発生量は281.2トンとなり、2009年度比約29%の増加となりました。これは、フロアレイアウト変更による一斉整理・処理が影響しています。

全体のリサイクル率は95.3%と、5年連続で90%以上をキープしており、埋立量は3.8トンとなりました。

また、スバル総合研修センターを、2010年度より併記しています。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量・埋立量の削減に努力していきます。



## エコキャップ回収活動

当社では2009年度よりペットボトルのキャップを回収し、NPO 法人を通してポリオワクチンを途上国へ送る活動に参加しています。2011年3月に第4回目となる回収を行い、累計173,760個(434.4kg)のエコキャップを寄贈することができました。これは約217.3名分のポリオワクチンとなり、途上国へと送られます。(エコキャップを焼却処分した場合と比較すると、CO<sub>2</sub>排出量を1,369kg削減したことになります。)

## 環境マネジメントシステム

2009年度、ISO14001の事務局として全社統合認証を取得しました。環境マネジメントシステムの適用範囲にスバル総合研修センターを加え、本社3サイトとしての活動を開始し、継続しています。

## 沿革

- 1953年 7月 富士重工業(株)設立 本社 東京都新宿区角筈2-73
- 1954年 5月 本社 千代田区丸の内2-18 内外ビルに移転
- 1966年 1月 本社 新宿区西新宿1-7-2 スバルビルを新築移転
- 2005年 3月 本社サイトとしてISO14001認証を取得
- 2010年 1月 富士重工業としてISO14001統合認証を取得

## お問い合わせ先

本社 総務部 TEL 03-3347-2111  
FAX 03-3347-2015